

公表	児童発達支援事業所における自己評価総括表
----	----------------------

○事業所名	スタディスマイル野田阪神		
○保護者評価実施期間	年 月 日		～ 年 月 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和8年2月5日		～ 令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの事を理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成され、専門性のある支援を行えていること。	子どもや保護者のニーズを把握した上で職員同士で話し合い、支援の方法を考えている。	今後も継続してミーティングを行い、専門性のある支援を行えるようにしていく。
2	活動プログラムを毎日、毎回変えているため支援内容が固定化されない。さらに、イベントや行事で外出する時は外出先を様々な場所に設定して、子どもたちの活動範囲や新しい体験や発見を増やしていること。	子どもたちに興味のある事や行ってみたい場所などを聞き、参考にしながら行事や活動プログラムを設定している。また、利用者の家族を招待して、保護者同士やきょうだい同士が交流できる場を設けている。	子どもたちの成長に伴い、興味や関心は変化していくため、今後もそれぞれの成長に合った活動プログラムを考えていく。
3	定期的に保護者や学校、ヘルパーなどと連携をとり、情報共有や助言等の家族支援を行っている。	送迎時に保護者や学校の先生、ヘルパーなどと面談する機会を設けたり、会うことが難しい状況の時は電話で対応したりして、保護者が相談しやすい環境作りや、支援者同士の協力関係を作っている。	職員全員が保護者や学校の先生との話し方など、家族支援について学ぶ機会を設け、実践していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の設備等がバリアフリー化されていない部分があり、環境上の配慮が十分になされていない。	今年度に身体障がいを持っている利用者を受け入れた。階段の上り下りやトイレやシンクなどの狭い空間での移動について、どの程度のバリアフリーが事業所に必要であるか課題として見えた。	第三者に事業所の設備の点検と利用者のニーズを検討してもらい、必要なバリアフリーがなされているか評価してもらえよう工夫する。また、身体障がいを持っている利用者の家族から意見をもらい、施設の設備をより充実させていく。
2	保護者会の開催等を実施出来ておらず、十分に保護者同士の交流の機会が設けられていない。また、きょうだい同士の交流の機会が十分に設けられていない。	保護者会を企画して呼びかけた際に、参加する保護者が限られてしまう事。また、利用者の家族が参加できるイベントをあまり企画出来なかった。	送迎時や面談などで保護者と会った際に、保護者会や保護者同士の交流について伺い意見をもらう。 保護者やきょうだい参加出来るイベントをより増やして、保護者やきょうだい同士が自然と交流できる機会を設けられるように促していく。
3	こどもが活動する時に、十分なスペースが確保出来ない事がある。	利用者たちが各々で活動(工作、運動、調理、等々)したい時に、十分なスペースを提供できていないという課題がある。	事業所内のレイアウトや設備の配置を変更して、スペースを確保する。また、外出したり、利用者がいつでも利用できる場所を活用する。

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		スタディスマイル野田阪神				公表日	2026年 3月 4日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		・外出イベントや公園遊びを定期的に行い、利用者たちが運動出来る機会を設けている				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9						
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	5	・階段の移動にスタッフが付き添っている	・階段に手すりがある ・エレベーターが設置されていない			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9						
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		・仕切りを使うなどして、一人の空間に移動してもらえようとしている	・個別の部屋が設置されていない			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9						
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9						
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9						
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	3					
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9						
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9						
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9						
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9						
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9						
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9						
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9						
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9						

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9		・空いた時間を見つけて振り返る時間を設けている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9			
	関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		
25		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9			
26		併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。				利用児が中、高校生のみなので、今のところはない。
27		就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。				利用児が中、高校生のみなので、今のところはない。
28		(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29		質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30		(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31		(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	9		・相談センターの相談員と連携し、助言をもらい、情報共有をしている ・オンラインで研修を受けている	
32		保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	9			
33		日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9				
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		・毎月、利用者と利用者の家族向けに、スマイルの活動報告や次回の行事予定をまとめた新聞をお渡ししている
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9		・スポーツイベントを企画し、兄弟や保護者を招待して参加している
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9		・図書館や博物館など、公共の場での活動は行われている
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9		
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		・今は大きなアレルギー発作を持つ子がいないが、強いアレルギーを持つ子が来所した時に指示書を見て対応していく予定である
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9			

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	スタディスマイル野田阪神		
○保護者評価実施期間	令和8年2月5日		～ 令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	令和8年2月5日		～ 令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの事を理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、個別支援計画が作成され、専門性のある支援を行えていること。	子どもや保護者のニーズを把握した上で職員同士で話し合い、支援の方法を考えている。	今後も継続してミーティングを行い、専門性のある支援を行えるようにしていく。
2	活動プログラムを毎日、毎回変えているため支援内容が固定化されない。さらに、イベントや行事で外出する時は外出先を様々な場所に設定して、子どもたちの活動範囲や新しい体験や発見を増やしていること。	子どもたちに興味のある事や行ってみたい場所などを聞き、参考にしながら行事や活動プログラムを設定している。また、利用者の家族を招待して、保護者同士やきょうだい同士が交流できる場を設けている。	子どもたちの成長に伴い、興味や関心は変化していくため、今後もそれぞれの成長に合った活動プログラムを考えていく。
3	定期的に保護者や学校、ヘルパーなどと連携をとり、情報共有や助言等の家族支援を行っている。	送迎時に保護者や学校の先生、ヘルパーなどと面談する機会を設けたり、会うことが難しい状況の時は電話で対応したりして、保護者が相談しやすい環境作りや、支援者同士の協力関係を作っている。	職員全員が保護者や学校の先生との話し方など、家族支援について学ぶ機会を設け、実践していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の設備等がバリアフリー化されていない部分があり、環境上の配慮が十分になされていない。	今年度に身体障がいを持っている利用者を受け入れた。階段の上り下りやトイレやシンクなどの狭い空間での移動について、どの程度のバリアフリーが事業所に必要であるか課題として見えた。	第三者に事業所の設備の点検と利用者のニーズを検討してもらい、必要なバリアフリーがなされているか評価してもらえよう工夫する。また、身体障がいを持っている利用者の家族から意見をもらい、施設の設備をより充実させていく。
2	保護者会の開催等を実施出来ておらず、十分に保護者同士の交流の機会が設けられていない。また、きょうだい同士の交流の機会が十分に設けられていない。	保護者会を企画して呼びかけた際に、参加する保護者が限られてしまう事。また、利用者の家族が参加できるイベントをあまり企画出来なかった。	送迎時や面談などで保護者と会った際に、保護者会や保護者同士の交流について伺い意見をもらう。 保護者やきょうだい参加出来るイベントをより増やして、保護者やきょうだい同士が自然と交流できる機会を設けられるように促していく。
3	こどもが活動する時に、十分なスペースが確保出来ない事がある。	利用者たちが各々で活動(工作、運動、調理、等々)したい時に、十分なスペースを提供できていないという課題がある。	事業所内のレイアウトや設備の配置を変更して、スペースを確保する。また、外出したり、利用者がいつでも利用できる場所を活用する。

公表

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

事業所名 スタディスマイル野田阪神

公表日 2026年 3月 4日

利用児童数 18

回収数 12

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9	2	1			スペースを確保するため、机の配置などを工夫している。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	9			3		日頃から研修等を行い、人材育成と人材確保に取り組んでいる。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9	2	1		・階段がある	ビルの構造上、階段しかない為、スタッフが付き添い、手すりを必ず使用することを促している。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	11			1		毎日清掃を行い、清潔を心がけている。また、活動の内容によって空間作りを工夫している。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	11	1				専門性のあるスタッフを利用者とその家族に再度紹介し、事業所で行える支援をより詳しく伝え直す。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	12					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	12					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	12					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	12					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	11				1	定期的新しい物を取り入れて、反応を見ながら継続を判断している。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	8	1	1	2		今後、地域に向けたイベントを企画していく予定。
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	12					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	12					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9		1	2		これからも保護者の方に寄り添えるような面談や助言を行っていきたい。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	11	1				連絡帳や送迎の際、面談などで細やかな対応をこれからも心掛ける。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	11	1				これからも保護者の方に寄り添えるような面談や助言を行っていきたい。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	11				1	何か相談や意見があった場合は、迅速に対応し、直接お話しする機会を作っている。
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	10			1	1	保護者の方から要望があれば保護者会の開催を検討したい。また、イベントへ利用者のきょうだいを招待し、スタッフや他のきょうだい同士で交流できるように促す。	

	19	子どもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	12					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	11			1		連絡帳での伝達や、送迎時に直接保護者に伝えている。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	9	1		2		ホームページや保護者向けの通知文書を用いて、活動概要や業務に関する評価結果などを発信している。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	11			1		十分に気を付け、保護者に理解して頂くために契約時にその趣旨を説明している。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	11			1		緊急避難場所や緊急避難先、緊急時の対応について改めて保護者に周知する。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11			1		定期的に避難訓練を実施し、そのときの利用者の姿や訓練内容を紙面で保護者に渡して周知している。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10	1		1		事業所では職員は把握している。今後、保護者にもわかるように書面で周知していきたい。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	11			1		事故発生時の利用者への対応方法や利用する医療機関などを書類にてお伝えし、改めて保護者に周知する。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	10		1	1		子どもたちが安心感を得られる環境作りや対応策をこれからも考えていきたい。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	9	2	1			子どもたちが楽しめる企画や工夫をこれからも考えていきたい。
	29	事業所の支援に満足していますか。	10	1		1		保護者や利用者の希望に添えるよう、一層努力していきたい。

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		スタディスマイル野田阪神				公表日	2026年 3月 4日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		・外出イベントや公園遊びを定期的に行い、利用者たちが運動出来る機会を設けている			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	5	・階段の移動にスタッフが付き添っている	・階段に手すりがある ・エレベーターが設置されていない		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		・仕切りを使うなどして、一人の空間に移動してもらえるようにしている	・個別の部屋が設置されていない		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	3				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9					
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9					
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9					
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9					
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9					

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9			・空いた時間を見つけて振り返る時間を設けている
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9			・今後、就学前の利用者が来所する場合に行う予定
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	9			・相談センターの相談員と連携し、助言をもらい、情報共有をしている ・オンラインで研修を受けている
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	9			・他事業所との交流がある（地域の子どもや大人と公園遊びを行った）
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	3	6		・地域に参加できる部会が発足されれば参加する予定 ・近隣地域の自立支援協議会には参加している
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9			・不登校支援の研修を利用者のご家族にお知らせした
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9		・スポーツイベントを企画し、兄弟や保護者を招待して参加している	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9		・毎月、利用者と利用者の家族向けに、スマイルの活動報告や次回の行事予定をまとめた新聞をお渡ししている	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9		・図書館や博物館など、公共の場での活動は行われている	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9			・今は大きなアレルギー発作を持つ子がいないが、強いアレルギーを持つ子が来所した時に指示書を見て対応していく予定である
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9				